

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B(DH202)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>地域福祉とはどんな意味なのか。どのような社会的背景から生み出されて、どんな基本的理念があるのか、対人援助職を志す者が要援助者を適切に理解するために社会福祉に関する知識や視点を獲得することは必須である。本演習では、前期 A での学修を踏まえ、対人援助職を志す者として、地域問題について共通認識・理解を高めるために、佐世保地域の小規模多機能施設や障がい者・児施設等のフィールドワークを通して、また、ボランティア活動参加を通じて地域全般の日常生活課題への理解と法制度・政策の改正の重要性を深めることを目標とする。加えて社会福祉学に関係するテーマを選定し、論文執筆の方法やプレゼンテーションの方法など研究の基礎を学ぶ。</p>							④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	施設見学やボランティア活動を通して、関心のあるテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				レポート	20%	
コミュニケーション力	プレゼンテーションを通じて自分自身の考えを他者に伝えることができる。自分自身と他者の考えの相違点を踏まえた上で討議できる。				プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	グループディスカッションに主体的に参加することができる。				ディスカッション	30%	
多様性理解力	自分自身と異なる立場や意見を尊重し、建設的に討議できる。				ディスカッション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験はおこなわず、レポート 20%、プレゼンテーション 40%、ディスカッション 40%をもって評価する。レポート課題では、課題について適切にまとめられているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションスキルを評価する。ディスカッションでは、自分自身と異なる立場や意見を理解、尊重し、建設的な討議ができているかどうかをもとに評価する。課題への取り組みやプレゼンテーションの内容については、授業内でのコメントなどを通じてフィードバックをおこなう。</p>							
授業の概要							
<p>本演習は、ゼミ形態での授業を基本とし、地域全般の福祉課題をテーマに取り上げ、学修を進める。その上、地域福祉活動の実際を施設見学を通してディスカッションや発表、レポート作成といった授業課題にグループで取り組む。授業で用いた資料はポートフォリオのコンテンツに掲載する。それによって、他者と協同しながら課題を解決する能力や協調性を醸成する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定しない 参考書：適宜紹介する 指定図書：「レポート・論文の書き方入門」（単行本） 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会、</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>地域全般の福祉課題を把握し、コミュニティ・ソーシャルワークに関心がある学生の履修を期待する。本授業では、グループワークやグループディスカッションが求められるため、履修生の主体的な参加を期待する。さらに、授業内容に関連するボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	シラバスの内容や授業の進め方などについて説明する。	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	プレゼンテーション①	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法についてディスカッションをおこなう。	予習：前期の研究レポート確認する 復習：プレゼンテーションの構成を考える
3	プレゼンテーション②	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法を学修する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの方法を省察する
4	プレゼンテーション③	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
5	プレゼンテーション④	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習・復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
6	プレゼンテーション⑤	作成したプレゼンテーション資料をもとに発表をおこなう。発表者のプレゼンテーションの方法や内容についてディスカッションをおこなう。	予習：プレゼンテーションの発表準備をおこなう 復習：プレゼンテーションへの取り組みを省察する
7	高齢者施設の見学	高齢者デイケアの見学を実施し、高齢者とコミュニケーションを図ることを通して高齢者について理解する。レポートにまとめる。	予習：高齢者に話しかける技法を考える 復習：高齢者への理解を省察する
8	障がい者・児施設の見学①	障がい者施設（小規模多機能）の見学を実施し、障がい者とコミュニケーション（非言語的も含め）を図ることを通して障がい者について理解する。レポートにまとめる。	予習：障がい者と会話技法をまとめる 復習：障がい者への理解を省察する
9	障がい者・児施設の見学②	障がい児施設（放課後デイ）の見学を実施し、障がい児とコミュニケーション（非言語的も含め）を図ることを通して障がい児について理解する。レポートにまとめる。	予習：障がい児と会話技法をまとめる 復習：障がい児への理解を省察する
10	事前学習	指定するボランティア活動に参加する。	予習：ボランティア活動参加時の留意点を確認する 復習：ボランティア活動への参加体験を省察する
11	ボランティア活動への参加	指定するボランティア活動に参加する。	予習：ボランティア活動参加時の留意点を確認する 復習：ボランティア活動への参加体験を省察する
12	オリエンテーション	3年次の専門演習などに関するオリエンテーションを実施する。	予習：興味関心を明確化する
13	ボランティア活動の参加体験の省察①	ボランティア活動における参加体験をレポートにまとめる。	予習：レポートの内容を考える 復習：レポートの内容を推敲する
14	ボランティア活動の参加体験の省察②	ボランティア活動への参加体験についてまとめたレポートを発表し、発表内容についてディスカッションをおこなう。	た レポートを発表し、発表内容についてディスカッションをおこなう。予習：レポートの発表準備をおこなう 復習：レポート作成の取り組みを省察する
15	総括	専門基礎演習における全体的な学修内容を振り返り、学修到達度を確認する。	予習：学修内容を確認する 復習：学修到達度を確認する

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	丸山 貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必須
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、専門基礎演習 A で学んだ成果をもとに精神保健福祉の分野で特に精神医学の視点から老年期に起こりうる認知症、うつ、身体合併症に伴うせん妄など精神疾患や身体疾患に伴う精神症状についてさらに理解を深めるとともに、そこに介入する専門職の医療連携について焦点を当てる。そのほか各自関心のあるテーマを取り上げディスカッションすることで知識を深める。</p> <p>後期では、認知症、うつ、せん妄といった各疾患の精神症状の特徴を理解したうえでソーシャルワークの視点から医療連携についての学びを深める。情報収集を行い、収集した情報を分析し、課題やテーマに即したグループディスカッションやプレゼンテーションを行う能力を身につける。</p>							④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	テーマに沿った課題について情報収集し、分析したうえで要点をまとめることができる。				課題レポート	15%	
コミュニケーション力	自分の意見を整理したうえで、他の学生の意見を聞き入れ理解し、互いの意見についてディスカッションできる。				グループディスカッション グループ発表	25% 25%	
協働・課題解決力	テーマに沿ってディスカッションした内容から浮かび上がってきた課題についてグループで解決策を導き出すことができる。				資料作成 課題レポート	10% 15%	
多様性理解力	課題をもとに、あらゆる立場の当事者の地域生活について理解し、ディスカッションができる。				グループディスカッション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内で提示する課題レポートの提出 (30%)。テーマに沿ってまとめた発表用の資料作成 (10%)。グループディスカッションやグループ発表がテーマに沿って的確に行われているかを評価する (60%) 授業への出席状況、授業態度も成績に反映させる。課題レポートについては、次回の授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は「授業のねらい」で提示している「精神保健福祉」「ソーシャルワーク」「医療連携」をテーマとして基礎的な知識の再習得と研究を進めるために必要なスキルを身につけることを目指す。ポートフォリオを活用し、レポート作成等を行ったり、グループでの取り組みや活発なディスカッション、プレゼンテーションを行ったりすることにより、個々の知識を広め、定着させていくような授業を展開する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業で配布する資料等を使用する。</p> <p>参考書：必要に応じて適宜紹介する。</p> <p>指定図書：精神保健医療福祉白書編集委員会著「精神保健医療福祉白書 2018/2019」中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、精神保健福祉の分野から「ソーシャルワーク」や「医療連携」をテーマとして取り上げるため、その分野に興味、関心を持って履修することを期待する。授業外では精神保健福祉の社会情勢に常に目を向け、授業内で問題提起することを期待する。また主体的かつ積極的に授業に参加することで、卒業研究に向けた知識習得を意識するとともに、向上心を持って授業に臨んでほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期の専門基礎演習の振り返りを行う。本演習の目的について、進め方について説明する。	予習：シラバスを確認 復習：授業を振り返り疑問点を整理する
2	精神疾患と精神症状について①	精神疾患とその特徴について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：精神疾患に関するイメージや知識をまとめておく。 復習：学んだ精神疾患を整理する。
3	精神疾患と精神症状について②	精神疾患とその特徴について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：今回の授業内容を整理しておく。 復習：学んだ精神疾患を整理する。
4	精神疾患と精神症状について③	精神疾患とその特徴について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：精神疾患の特徴について考えておく。 復習：学んだ精神症状を整理する。
5	精神疾患と精神症状について④	精神症状とその特徴について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：精神症状の特徴について考えておく。 復習：疑問に感じたことをまとめる。
6	精神疾患と精神症状について⑤	精神症状とその特徴について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：精神症状の特徴について考えておく。 復習：授業内容を振り返る。
7	精神保健福祉と医療連携①	精神保健福祉と医療連携について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：専門職について調べる。 復習：授業内容を振り返る。
8	精神保健福祉と医療連携②	精神保健福祉と医療連携の問題点や課題について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：医療連携の具体例を調べる。 復習：授業内容を振り返る。
9	精神保健福祉と医療連携③	精神保健福祉と医療連携の問題点や課題について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：配布資料を読む。 復習：授業内容を振り返る。
10	精神保健福祉と医療連携④	精神保健福祉と医療連携のツールとして現在、どのようなものがあるか調べてディスカッションする。	予習：配布資料を読む。 復習：ツールとは何か考える。
11	医療連携ツールの検討①	精神保健福祉と医療連携のツールを検討してディスカッションする。	予習：ツールの有効性をまとめる。 復習：配布資料を読む。
12	医療連携ツールの検討②	精神保健福祉と医療連携のツールを検討して資料をまとめる。	予習：配布資料を読む。 復習：授業を振り返る。
13	プレゼンテーションの準備。	これまでの内容をまとめて、プレゼンテーション用資料を作成する。	予習：資料作成計画を立てる。 復習：発表資料の整理。
14	プレゼンテーションを実施。	これまでの内容をまとめて作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。	予習：発表準備。 復習：授業内容を振り返る。
15	全体の振り返り	これまでまとめてきた内容を振り返り、自分の研究テーマの検討を行う。	予習：これまでの内容の整理。 復習：次年度の準備。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習の目的は、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要な基本的考え方(価値)と知識を習得することにある。そのために必要とされる思考力・判断力・表現力を、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して身につけていく。</p> <p>後期においては、児童福祉の歴史や発達に関する基礎的理解を踏まえつつ、子どもの意見表明権・参加する権利を生活の視点から捉え、子どもとの協働の進め方やポイントを学ぶ。</p> <p>このような学修を通じて、子どもの参加する権利を尊重したソーシャルワークの実践基盤を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	児童福祉の歴史や発達、子どもの意見表明権・参加する権利に関する情報を収集し、解釈したことを文章や図表で示すことができる。				第4回・第8回小レポート	10%	
コミュニケーション力	児童福祉及び関連分野について調べた結果を、プレゼンテーションを通じて他者に伝えることができる。 子どもの意見と参加を重視したソーシャルワークについて学んだ成果を、自分の言葉で表現することができる。				第13回グループ発表 期末課題レポート	30% 30%	
協働・課題解決力	児童福祉の歴史や子どもの意見・参加、児童福祉・関連分野をテーマとしたグループワークに、主体的に参加することができる。				グループワーク	25%	
多様性理解力	子どもの育ちの多様性について理解することができる。				グループワーク	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>期末の課題レポート(30%)では、子どもの意見や参加を重視したソーシャルワークに関する学びの習熟度を評価する。グループ発表(30%)では、分担する課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができるかを評価する。小レポート(10%)では、レポート作成のルールを守った上で、自分の考えについて適切に文章表現をすることができるかを評価する。グループワーク(30%)では、ディスカッション・作業等への参加態度とグループへの貢献度を重視する。</p> <p>必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内においてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記のねらいに沿って、担当教員が参考文献、視聴覚資料、統計資料等をもとに情報提供を行う。それらを踏まえ、受講生がグループワーク(ディスカッション、発表等)に取り組む参加型の授業である。その過程で、インターネットを活用した情報検索やPower Pointによるプレゼンテーション方法を指導する。具体的には、子どもの意見や参加を重視したソーシャルワークをテーマとし、事例検討・事例紹介を行うとともに、受講生にも具体的事例を調べ、プレゼンテーションをしてもらう。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で配布する資料を用いる。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：小口尚子・福岡鮎美(1995)『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>児童福祉分野の価値基盤となる子どもの権利及び歴史・発達に関する内容をテーマとして取り上げるため、児童福祉やスクールソーシャルワーク等、子どもの生活支援に興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められ、その取り組み状況が評価対象となるため、その点を十分に踏まえた上で選択することを勧める。</p> <p>なお、子どもとの協働事例やツールについては英語で提供されている場合が多く、それらの内容を把握するために、中学校・高等学校で学習する程度の英語を授業内で用いることがある。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの説明を行う。 受講生の学びたいこと・期待すること等についてディスカッションを行う。	予習：シラバスを熟読し、本演習で学びたいこと・期待すること等を整理する。
2	児童福祉の歴史①	映画「オリバー・ツイスト」の前半部分を視聴し、19世紀における児童観や児童保護政策について理解する。	予習：児童福祉の歴史の概要について復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
3	児童福祉の歴史②	映画「オリバー・ツイスト」の後半部分を視聴し、19世紀における児童観や児童保護政策について理解する。	予習：児童福祉の歴史の概要について復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
4	児童福祉の歴史③	映画「オリバー・ツイスト」を視聴して作成した振り返りシートの内容を共有する。グループワークを通して、学んだ内容を整理する。 ※小レポート提示	予習：映画を見て学んだことを整理する。 復習：小レポートを作成する。
5	子どもの育ちの理解	子どもの発達研究に関するビデオの視聴、子どもの育ちのニーズの満たされ方に関するアセスメントツールの活用を通して、子どもの育ちに関する理解を深める。	予習：発達に関する学びについて復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
6	子どもの意見表明権・参加する権利①	子どもの意見表明権・参加する権利について学ぶ。社会的養護をテーマとした映画「少年と自転車」を視聴する。	予習：社会的養護に関する知識を整理する。 復習：子どもの意見や参加について考えたことを記録する。
7	子どもの意見表明権・参加する権利②	社会的養護をテーマとした映画「少年と自転車」(続き)を視聴する。 子どもの意見表明権や参加する権利について、各自の意見を整理する。	予習：子どもの意見を聴き参加を促す大人の役割について考える。 復習：映画の内容を踏まえ、自分の意見を文章化する。
8	子どもの意見表明権・参加する権利③	子どもの意見表明権や参加する権利をテーマに、ディスカッションを行う。 これらの権利が護られていない具体的生活場面について挙げ、整理する。 ※小レポート提示	予習：ディスカッションの準備をする。 復習：小レポートを作成する。
9	児童福祉・関連分野に関するグループワーク①	児童福祉及び関連分野に対する受講生の関心を調査した上で、グループを編成する。 グループごとに、調査を行うテーマを決定する。	予習：関心のある分野について考えてくる。 復習：役割分担に従い作業する。
10	児童福祉・関連分野に関するグループワーク②	決定したテーマに即して、グループごとに概念・養護、統計データ、事例等を調べ、記録する。	予習：グループで話し合う内容を整理する。 復習：役割分担に従い作業する。
11	児童福祉・関連分野に関するグループワーク③	グループごとに調査を行った内容を整理し、資料を作成する。 次のプレゼンテーションに向けた準備を行う。	予習：グループでの打合せ内容について準備する。 復習：役割分担に従い作業する。
12	児童福祉・関連分野に関するグループ発表	グループごとに調べた内容についてのプレゼンテーションを行う。 結果を全体で共有し、振り返りを行う。	予習：プレゼンテーションの準備を行う。 復習：振り返りシートに記入する。
13	専門演習 A・B 選択説明会	3年次に履修する専門演習 A・B に関する選択説明会に参加する。担当教員からの各ゼミでの学修内容に関する説明を聞き、各自の関心に沿って希望のゼミを選択する。	予習：3年次のゼミで学びたいことを整理する。 復習：希望理由等を作成する。
14	子どもと協働するソーシャルワーカーの役割	これまでの授業内容を踏まえて、子どもと協働するために、ソーシャルワーカーに必要とされるものについてグループディスカッションを行う。	予習：ソーシャルワーカーの役割について考察する。 復習：ディスカッションの内容を整理する。
15	子どもの参加する権利を護るソーシャルワークの基盤	これまでの授業内容のまとめを行う。 ※課題レポートの提示	予習：これまでの授業の総まとめを行う。 復習：課題レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉実践者は、援助実践に求められる資質や能力、ホスピタリティとは何かを問い、日々福祉マインドを醸成していくことを通じて成長していく。私たちはそうした過程を実践の中で絶えず続けていくことが求められている。そこで、本科目のねらいを「人間尊重を重んじ自己研鑽を続ける社会福祉実践者としての自己を形成すること」とし、『福祉哲学』『社会貢献』を学修の柱に据え、「基礎学力」や「人間力」、「専門知識・技術」を高めていく。については、その作業を下記の4つの段階に分け、本科目においては第2段階に取り掛かることとする。</p> <p>第1段階 学習の基礎（土台）固め 第2段階 主体的な学習姿勢の構築 第3段階 研究の方法の修得 第4段階 研究の実施（卒業論文作成）</p>							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、様々な媒体を活用して情報を収集し、自分の考えを論理的にまとめることができる。					・課題の達成度 ・グループ討議での発言内容	10% 10%
コミュニケーション力	積極的に自分の意見を伝えるとともに、他者の意見を傾聴することを通じて、関係を築くことができる。					・課題の達成度 ・グループ討議への参加姿勢	25% 25%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働してその解決策を導き出すことができる。					・課題の達成度 ・グループ討議での貢献度	15% 15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度（50%）：レポート課題（PPTもしくはWord、ポートフォリオにて作成）にて評価を行う。右表にあるレポート課題①～③、⑥は5点、④⑤は15点とする。</p> <p>発表・ディスカッションでの発言内容（10%）、参加姿勢（25%）、貢献度（15%）：発表・ディスカッション時の発言内容、参加姿勢、貢献度を総合的に評価する。なお、第3、4、7、8、12、13回の授業時を主に評価対象とする。</p> <p>フィードバック：課題や発表・ディスカッションに関する評価のフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、『福祉哲学』『社会貢献』をベースに、福祉マインドを醸成し自己を形成していくため、主体的な学習姿勢の構築を図る。専門基礎演習Aの学習に引き続き、身につけるべき基礎学力と人間力、学習への意欲をより高次のものにしていけるよう、「国勢調査』『ケアの本質—生きることの意味』を用い、グループ討議をしながら学修していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業時に資料を配布する</p> <p>参考書：厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社等の政府刊行物 ※ 発行年問わず</p> <p>指定図書：メルトン・メイヤロフ（1987）『ケアの本質—生きることの意味』ゆみる出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、卒業論文につながるものであり、またゼミ方式で行われるものであることから、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由で活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	講義計画の概要の紹介を行う。また、2年次前期の振り返り、後期の予定確認、ルーブリック評価を実施する。	復習：2年次後期のスケジュールを整理。
2	オリエンテーション②	学習方法（レポートの作成の仕方、報告やグループ討議の仕方）に関する説明を行う。	復習：学習方法に関する確認。
3	『ケアの本質』読解① 文献熟読・ディスカッション	第1章「他者の成長を助けることとしてのケア」を熟読し、事例等を踏まえたディスカッションを行う。《レポート課題①》	予習：第1章熟読。 復習：レポート課題①「第1章考察」提出。
4	『ケアの本質』読解② 文献熟読・ディスカッション	第2章「ケアの主な要素」を熟読し、事例等を踏まえたディスカッションを行う。《レポート課題②》	予習：第2章熟読。 復習：レポート課題②「第2章考察」提出。
5	『ケアの本質』読解③ 文献熟読・レポート作成	第3章から第6章のレポート報告担当を決め、各人が担当箇所を熟読し、PPTにまとめる。	復習：担当箇所熟読、レポート作成。
6	『ケアの本質』読解④ 文献熟読・レポート作成	第3章から第6章のレポート報告担当を決め、各人が担当箇所を熟読し、PPTにまとめる。《レポート課題③》	予習：担当箇所熟読、レポート作成。 復習：レポート課題③「担当箇所考察」提出。
7	『ケアの本質』読解⑤ 発表	第3章「ケアの主要な特質」第4章「人をケアすることの特殊な側面」について、担当によるレポート報告、事例等を踏まえたディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：発表会の振り返り。
8	『ケアの本質』読解⑥ 発表	第5章「ケアはいかに価値を決定し、人生に意味を与えるか」第6章「ケアによって規定される生の重要な特徴」について、担当によるレポート報告、事例等を踏まえたディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：発表会の振り返り。
9	「日本の現状と将来」① 各種調査等の考察・レポート作成	日本の現状と将来について、それぞれ何を調べるかを定め、各種調査等の資料を収集する。基に理解を深め、レポートにまとめる。	復習：資料収集。
10	「日本の現状と将来」② 各種調査等の考察・レポート作成	日本の現状と将来について、前回授業で収集した各種資料等のデータを基に理解を深め、レポートにまとめる。	予習：資料熟読。 復習：資料熟読、レポート作成。
11	「日本の現状と将来」③ 各種調査等の考察・レポート作成	日本の現状と将来について、前回授業で収集した各種調査等のデータを基に理解を深め、レポートにまとめる。《レポート課題④》	予習：レポート作成。 復習：レポート課題④「日本の現状と将来」提出。
12	「日本の現状と将来」④ 各種調査等の考察・レポート作成	各々が作成してきたレポートを発表し、日本の現状と将来について把握する。また、それらの発表から日本の全体像を確認する。《レポート課題⑤》	予習：発表準備。 復習：レポート課題⑤「どう生きるか」提出。
13	「日本の現状と将来」⑤ 発表	前回の発表を踏まえ、今後どう生きるかについて各人が発表する。そして、これから先何をしていけばよいのかを確認する。	予習：発表準備。 復習：発表の振り返り。
14	全体の振り返り	これまでの全体の振り返りを実施する。《レポート課題⑥》	復習：レポート課題⑥「自己評価、3年生」提出。
15	専門演習の選考	専門演習に向けての確認を行う。（専門演習の選定時間）	復習：専門演習開講クラス資料熟読。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門基礎演習はA・Bは、3年次開講の「専門演習」へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。専門演習に向けて学修を深めるために、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。論文のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成(評価比率10%)、プレゼンテーション(評価比率20%)、ディスカッション(評価比率70%)などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員でディスカッションの上決定した文献を各自分担の形でプレゼンテーションを行う。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、レポート形成の基礎となる学問的作法(問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方など)を学ぶ。課題の提示・学生からの回答、テスト、学習内容のフィードバックにポートフォリオを使用する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&卒論の書き方』(2005) 川村匡由・川村岳人 中央法規 ※適宜参照する 指定図書：2021 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>3年次の専門演習の基礎となる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態度の有無によって、専門演習における学修の深まりに差が出てくることが予想される。自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などスケジュールを確認する	年間スケジュールを確認する
2	論文作成の基礎①	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文とはそもそも何か、論文のテーマ設定、構成の仕方について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
3	論文作成の基礎②	『レポート&卒論の書き方』を通じて、引用、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
4	調査研究と文献研究①	論文購読を通じて、調査研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
5	調査研究と文献研究②	論文購読を通じて、文献研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
6	レポートのテーマ検討①	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
7	レポートのテーマ検討②	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
8	レポートのテーマ検討③	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
9	レポートのテーマ検討④	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
10	レポートのテーマ決定	各自、レポートのテーマを確定する。合わせて章立てや執筆スケジュール、題目届も作成する	予習: レポートのテーマや章立てについてまとめる
11	レポート作成①	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
12	レポート作成②	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
13	3年次の専門演習決めオリエンテーション(全体会)	3年次の専門演習決めオリエンテーション(全体会)に参加し、次年度の配属ゼミ希望について自分の考えをまとめる	予習: 次年度のゼミ志望の考察 復習: ゼミ希望レポートの執筆
14	レポート作成③	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
15	春休みの課題と指導	春休み中に取り組むべき課題を指示する	春休み期間中の課題計画の作成

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	中村 尚生		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
心理学は社会福祉学と近接した領域であり、対人援助職を志す者が相談者を適切に理解するために心理学的知識や視点を獲得することは必須である。また、援助行為には対人コミュニケーションが必要不可欠であり、対人援助職を志す者が自分自身のコミュニケーションのあり方を把握しておくことは重要である。本授業では、対人援助職を志す者として、こころの問題及び障がいの理解ならびに自己理解の深化を目的とする心理学的知識や視点の獲得を目指す。加えて、心理、障がい、児童などの分野において社会福祉学に関係するテーマを選定し、論文執筆の方法やプレゼンテーションの方法など研究の基礎を学ぶ。							④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	関心のあるテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				レポート	20%	
コミュニケーション力	プレゼンテーションを通じて自分自身の考えを他者に伝えることができる。 自分自身と他者の考えの相違点を踏まえた上で討議できる。				プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	グループディスカッションに主体的に参加することができる。				ディスカッション	30%	
多様性理解力	自分自身と異なる立場や意見を尊重し、建設的に討議できる。				ディスカッション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験はおこなわず、レポート 20%、プレゼンテーション 40%、ディスカッション 40%をもって評価する。レポート課題では、課題について適切にまとめられているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションスキルを評価する。ディスカッションでは、自分自身と異なる立場や意見を理解、尊重し、建設的な討議ができていくかどうかをもとに評価する。課題への取り組みやプレゼンテーションの内容については、ポートフォリオなどを通じてフィードバックをおこなう。							
授業の概要							
本授業は、ゼミ形態での授業を基本とし、心理学や障がい児・者及び子どもを対象とする支援をテーマに取り上げ、学修を進める。また、プレゼンテーションや自己分析、レポート作成といった授業課題に個別に取り組む。それによって、論理的思考力や自己理解力を醸成する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 参考書：適宜紹介する 指定図書：佐藤佳弘『わかる!伝わる!プレゼン力：プレゼンテーション虎の巻』武蔵野大学出版会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
障がい児・者や子どもへの支援に関心がある学生の履修を期待する。 本授業では、グループワークやグループディスカッションが求められるため、受講学生の主体的な参加を期待する。さらに、指定するボランティア活動への積極的な参加を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	シラバスの内容や授業の進め方などについて説明する。	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	プレゼンテーション①	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法についてディスカッションをおこなう。	予習：前期の研究レポートを確認する 復習：プレゼンテーションの構成を考える
3	プレゼンテーション②	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法を学修する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの方法を省察する
4	プレゼンテーション③	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
5	プレゼンテーション④	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習・復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
6	プレゼンテーション⑤	作成したプレゼンテーション資料をもとに発表をおこなう。発表者のプレゼンテーションの方法や内容についてディスカッションをおこなう。	予習：プレゼンテーションの発表準備をおこなう 復習：プレゼンテーションへの取り組みを省察する
7	自己分析①	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
8	自己分析②	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
9	自己分析③	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
10	事前学習	指定するボランティア活動への参加に向け、事前学習をおこなう。	予習：ボランティア活動を調べる 復習：ボランティア活動への参加の意義を確認する
11	ボランティア活動への参加	指定するボランティア活動に参加する。	予習：ボランティア活動参加時の留意点を確認する 復習：ボランティア活動への参加体験を省察する
12	オリエンテーション	3年次の専門演習などに関するオリエンテーションを実施する。	予習：興味関心を明確化する
13	ボランティア活動の参加体験の省察①	ボランティア活動における参加体験をレポートにまとめる。	予習：レポートの内容を考える 復習：レポートの内容を推敲する
14	ボランティア活動の参加体験の省察②	ボランティア活動への参加体験についてまとめたレポートを発表し、発表内容についてディスカッションをおこなう。	予習：レポートの発表準備をおこなう 復習：レポート作成の取り組みを省察する
15	総括	専門基礎演習における全体的な学修内容を振り返り、学修到達度を確認する。	予習：学修内容を確認する 復習：学修到達度を確認する